

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2024年12月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	．．． 3
2 各軍等	．．． 4
3 対台湾動向	．．． 8
4 対日動向	．．． 9
5 国境地域等での活動	．．． 13
6 軍事交流	．．． 15
参考文献	．．． 20

中国軍事動向月報：2024年12月

2025. 1. 9

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全般

12月は各部隊において年末検閲（原文：年終考核）が実施され、1年の訓練の成果が確認された。

また、秋季徴兵隊員が新隊員教育を終了し各部隊に配置される一方、冬季退役隊員の退役行事が各部隊等で確認された。

台湾関連では、中国は公表していないものの、台湾周辺で9～12日頃に大規模な軍事演習を実施した可能性がある。2024年5月・10月に台湾周辺で中国軍が実施した「聯合利剣」は東部戦区が主催したが、今回は3コ戦区海軍の活動が確認されていることから中央軍事委員会が主催した可能性があり、そうであればよりレベルの高い訓練と言えよう。また、中国から演習実施の宣言がないことは、アピール目的の政治的な訓練であった「聯合利剣」とは違い、台湾有事の際の当初の海軍及び海警の展開をより実戦に即した形で情報統制しつつ演練した可能性が考えられる。

この軍事演習に関連し、日本周辺での海警船の活動にも特異事象が認められた。

12月の尖閣領海への定期侵入は6日であったが、侵入したのは11月から上番していた直属第1支隊編隊であり、これを増援するような形で直属第2支隊の76mm砲搭載船4隻が尖閣まで航行し、定期侵入後に交代を行った。新たに上番した海警船4隻全てが76mm砲搭載なのは初確認であり、台湾有事の際、尖閣へ76mm砲を搭載した海警編隊4隻を増強して対応する想定で演練した可能性がある。

また、12月に上番した海警船の内、2隻は3000t級・818型であり尖閣周辺海域で確認されたのは初めてである。818型は、海軍のジャンカイII級フリゲート艦の船体をベースとして建造された海警船であり、同2隻は2024年9月以降、日本海から北太平洋においてロシア国境警備局と共同訓練と共同パトロールを実施し、10月には海警船として北極海を初航行した。この際、ヘリを使用したパトロールも実施している。海軍仕様の海警船をヘリの使用も見据えて尖閣周辺で活動させ始めた可能性があり、エスカレーションラダーを上げる準備を整えていると見られる。

南シナ海においては、11月のスカボロー礁領海基線設定を機にフィリピンへの取り締まりを強化しており、12月も継続された。

2 各軍等

(1) 習近平中央軍委主席の部隊視察

○ 情報支援部隊視察¹

12月4日、習近平中央軍委主席は情報支援部隊を視察し、同部隊の第1回党代表大会の開催を祝した。

習主席は現代戦における情報ネットワークシステムの重要性を強調した上で、「情報ネットワーク支援プラットフォーム建設を迅速かつ着実にいき、各種データを融合し、情報ネットワーク防御を重視し、システムの融合・起動・高度化を加速し、指揮モデルの刷新や作戦方式の転換を牽引せよ」と訓示した。また、党による指導を絶対とし、「中央軍事委員会が全般統制を強化し、同会の関連部門が積極的に現場に進出して指導を行い、各部署が積極的に協力し、共同で情報支援部隊を育成し、我が軍の情報ネットワークシステム建設の新たな局面を切り開かねばならない」と述べた。

視察には、11月28日に役職停止検査処分が公表された苗華政治工作部主任を除く中央軍事委員会メンバー4人全員が同行した。

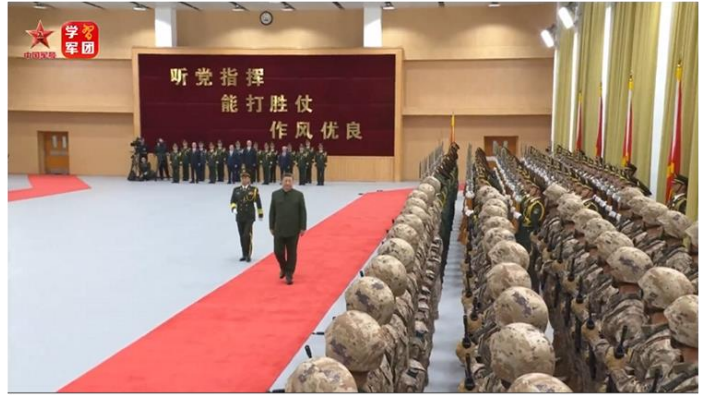
○ マカオ駐留部隊視察²

12月20日、習近平中央軍委主席はマカオ復帰25周年記念行事に合わせ、新口岸駐屯地にてマカオ駐留部隊を視察した。習主席は部隊を検閲後、訓示を行い、部隊建設を強化し、防衛能力を向上させ、マカオの特色ある一国二制度実践の為に引き続き更に貢献するよう強調した。

情報支援部隊と習近平以下中央軍事委員 マカオ駐留部隊を閲兵する習近平



(資料源：新華網20241205)



(資料源：国防部網20241220)

【コメント】

情報支援部隊は4月19日、戦略支援部隊の解組に伴い中央軍事委員会直轄として新編された部隊であり、今回初めて習主席による視察を受けた。

通常、習主席の部隊視察には2名いる中央軍事委員会副主席のどちらかが随行するのが常であり、中央軍事委員全員が同行することはない。今回異例の全員同行となった理由は、①同部隊が中央軍事委員会直轄とされながら委員会が十分に指導できていない事への習近平の不满、②苗華の処分による内外の動揺を抑えるため、習近平が他中央軍事委員を掌握していることをアピール、の2つが考えられる。

なお、マカオ駐留部隊の視察の中央軍事委員会からの同行は何衛東中央軍委副主席1名であった。

(2) 統合訓練

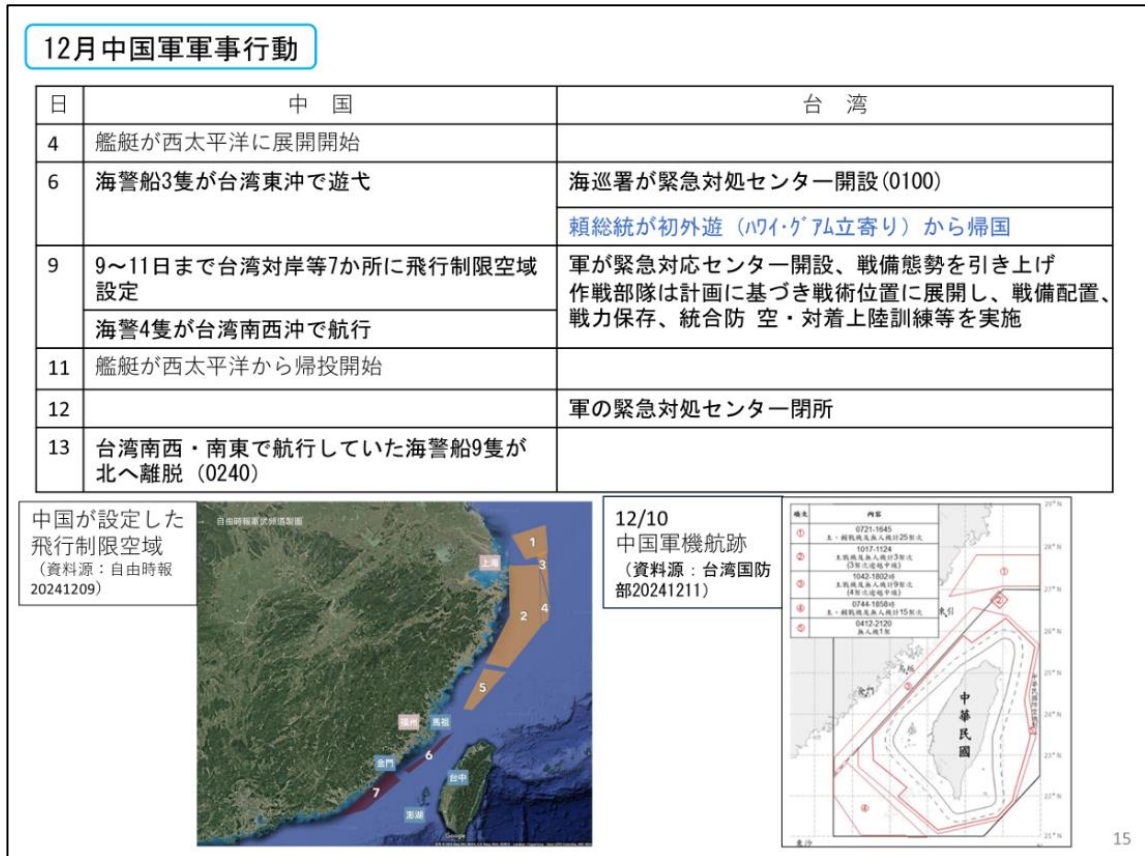
○ 台湾周辺での軍事行動

台湾は12月6日以降、中国軍・中国海警の活動活発化に対し、警戒を強化していると明らかにした。

6日に海警船が特異な航行を開始、9～11日には中国が台湾対岸を含む7か所に飛行制限区域を設定した。台湾国防部によれば、中国の東部・北部・南部戦区海軍及び海警が、台湾周辺、西大西洋に進出、台湾東方沖及び第1列島線～第2列島線間に展開し、台湾本島の海上封鎖とA2/AD（接近阻止・領域拒否）により台湾海峡の内海化を企図した軍事行動を実施した³。

台湾の安全保障関係者がロイターに語ったところによると、中国が台湾や日本列島南部の近海、東シナ海、南シナ海に海軍と海警局の船舶を約90隻派遣、うち約3分の2が海軍艦船であった⁴。

中国は当該行動につき公表はせず、13日の記者会見で質問された国防部報道官が「兵に常勢なく、水に常形なし。演習実施の有無及び時期は我々自身の必要性和闘争情勢によって自主的に決定する。」と述べた⁵。



【コメント】

中国は当該行動について公表していないものの、台湾周辺で9～12日頃に大規模な軍事演習を実施した可能性がある。

2024年5月・10月に台湾周辺で中国軍が実施した「聯合利剣」は東部戦区が主催したが、今回は3つ戦区海軍の活動が確認されていることから中央軍事委員会が主催した可能性があり、そうであればよりレベルの高い訓練と言えよう。

また、中国から演習実施の宣言がないことは、アピール目的の政治的な訓練であった「聯合利剣」とは違い、台湾有事の際の当初の海軍及び海警の展開をより実戦に即した形で情報統制しつつ演練した可能性が考えられる。

(3) 海軍

○ 076 型強襲揚陸艦の進水命名式

12月27日、076型強襲揚陸艦1番艦の進水命名式が上海滬東中華造船所で挙行された。

公式に報道された諸元等は以下の通り⁶

- ◇ 名称等：「四川」、艦番号 51
- ◇ 満載排水量：4万 t 以上
- ◇ 装備等：ツインアイランド式、全通甲板、電磁カタパルト・アレスティングギア装備
- ◇ 搭載装備：固定翼機、ヘリ、水陸両用車

進水命名式



甲板の状況（青い建屋の下が電磁カタパルト）



(資料源：左右共環球網20241228)

【コメント】

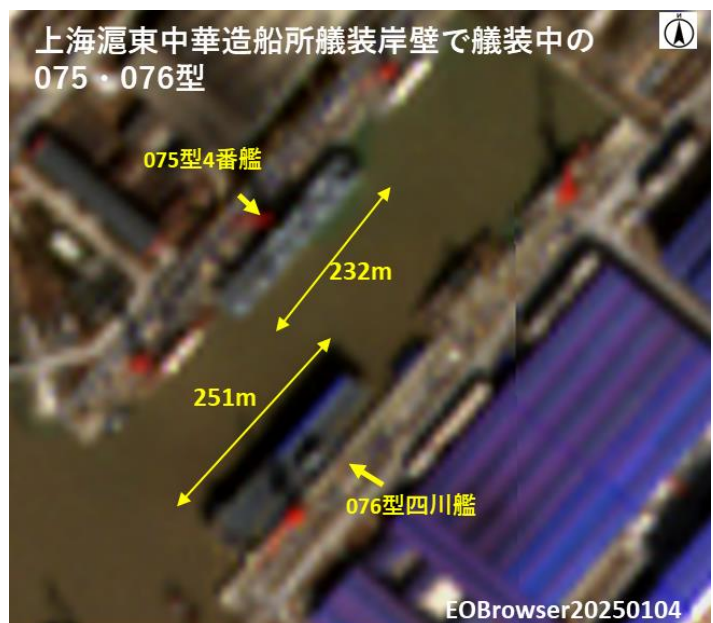
中国海軍では既に 36000t の 075 型（ユーシェン級）強襲揚陸艦 3 隻が就役、1 隻が艤装中であるが、それより大型で電磁カタパルトを有する新型強襲揚陸艦を進水させた。

左の衛星画像は、進水後の 075 型と 076 型であるが、比較すると 076 型の全長が約 20m 長い。075 型は装甲車×60、ヘリ×28 の搭載が可能（ミリタリーバランス 2024）であり、同等以上の輸送能力を保持している。

更に、電磁カタパルト搭載により固定翼機の発着艦が可能であり、ヘリのみ可能な 075 型より強襲能力が大幅に向上するであろう。

また、ツインアイランド式であり、前方は艦の航行・海上作戦を、後方は航空機の離発着・航空作戦を指揮統制と分けることにより、効率的に航空作戦を遂行できる。特に、UAV をスウォーム化して統制するにも有効と思われ、UAV 母艦として活用される可能性もある。

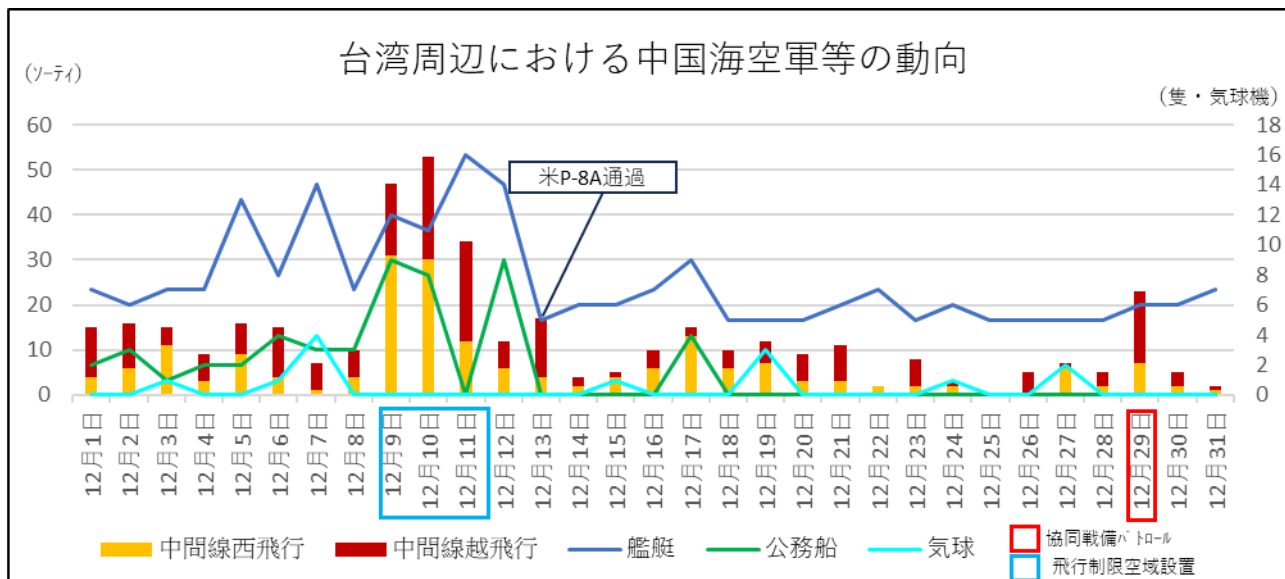
075 型は進水から艤装・海上試験を経て就役まで約 20~21 か月を要しており、四川艦が同様な 1 番艦の為やや 075 型より長いとしても 2026 年末までには就役する可能性がある。



3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

- 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

12月は中国軍機延べ402ソーティー（内、中間線超え延べ209）、中国艦艇延べ233隻、公務船延べ50隻、気球延べ13機が確認。

1日における軍用機最大確認数は53ソーティー、最大中間線超え23ソーティー、海空協同戦備パトロールは1回であった。

中国が台湾対岸を含む7か所に飛行制限空域を設定した9～11日は航空機の活動が活発であった。また、5～12日にかけて艦艇・公務船の活動が活発であり、この間、飛行制限空域と関連した統合軍事演習が実施された可能性がある。（細部「2各軍等（2）統合訓練」の項参照）

(2) 金門周辺海域での動向

- 海警のパトロール

台湾海巡署によると12月の台湾制限水域への入域は4回で、2024年2月以降の金門制限海域への入域は52回であった。

12月27・30日にそれぞれ1回、31日に2回中国海警4隻が金門制限水域に入域、一回当たり約2時間航行し出域した。台湾海巡署は巡視艇4隻を派遣し退去させたと表明⁷。

一方、中国海警局は、31日に福建海警が金門付近海域で常態化法執行パトロールを実施した、と表明した⁸。

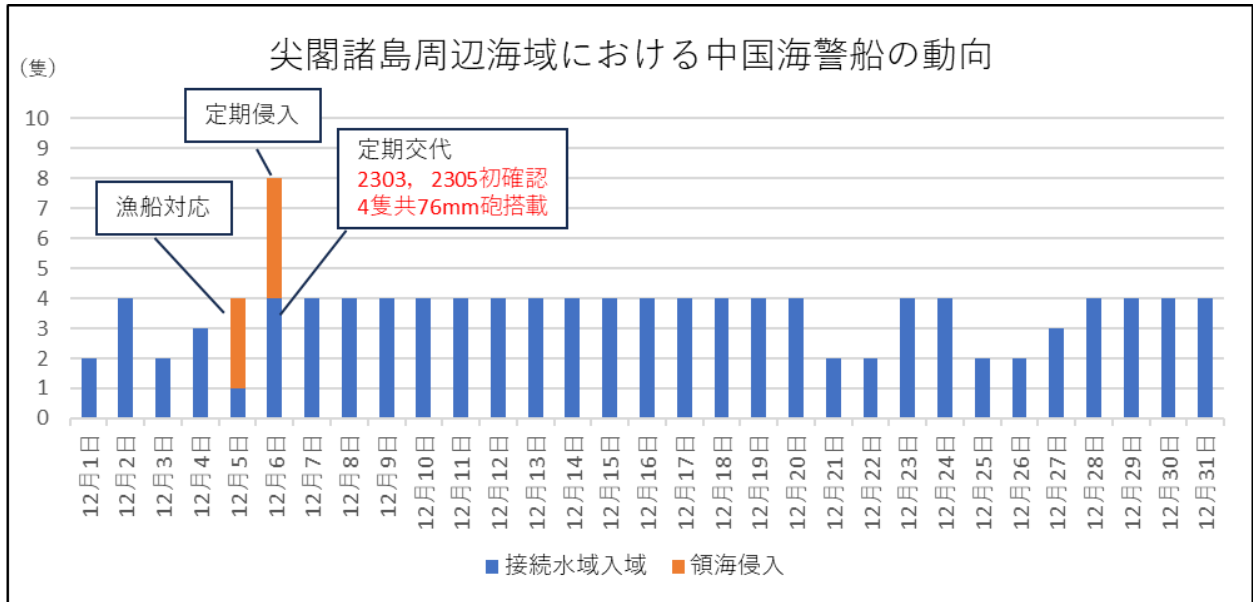
【コメント】

2024年2月に金門島周辺海域において台湾当局の取り締まりを契機に中国漁民2名が死亡したことを受け福建海警局が同海域でパトロール開始、月に4回程度、4隻で入域し2時間航行、というパターンが定着した。偶発的な衝突を口実にプレゼンスを拡大・常態化させ、徐々に現状変更を強要していくという中国の典型的なサラミ戦術の事例と言える。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

12月5日、海警局報道官は「5日、日本漁船瑞宝丸が違法に我が魚釣島（注：原文ママ）領海内に侵入したため、中国海警は法に基づき必要な措置を採り警告駆逐した」と表明⁹。

定期交代は12月6日に実施されたが、上番した海警船4隻全てが76mm砲搭載なのは初確認。また、2303・2305の尖閣周辺での活動も初確認であった。

【コメント】

12月前半の台湾周辺で軍事演習を実施したが、日本周辺での海警船もこれに関連した可能性がある。

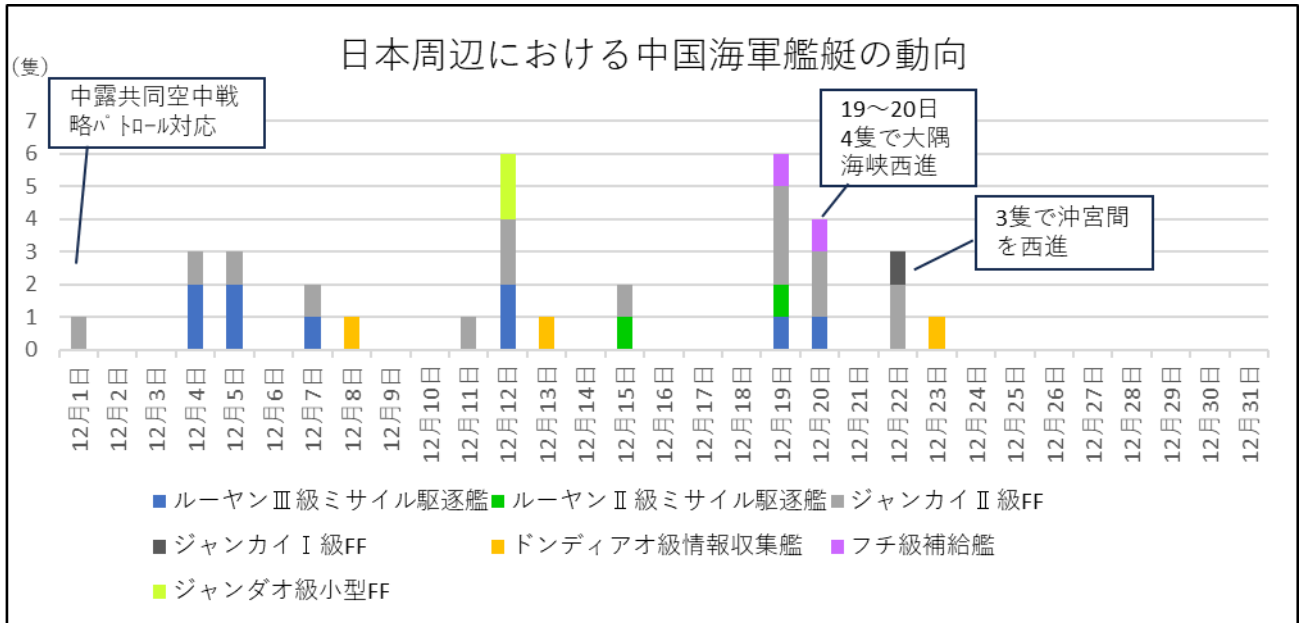
今月の定期侵入は6日であったが、侵入したのは11月から上番していた直属第1支隊編隊であり、これを増援するような形で直属第2支隊の76mm砲搭載船4隻が尖閣まで航行し、定期侵入後に交代を行った。台湾有事の際、尖閣へ76mm砲を搭載した海警編隊4隻を増強して対応する想定で演練した可能性がある。現在、海保巡視船搭載砲は最大40mm機関砲であり、尖閣周辺海域で並走する海警船には有効であるが、今回のように76mm砲搭載船が増援に来た場合、尖閣周辺で海警船4隻に対応中の海保巡視船が、増援に来た76mm砲を搭載した海警船からアウトレンジ射撃（相手の射程外からの一方的な射撃）される可能性もある。

また、12月に上番した2501（5000t級）と2204（2000t級・718B型）はこれまでも確認されているが、2303と2305は3000t級・818型であり、尖閣周辺海域で確認されたのは初めてである。

818型は、海軍のジャンカイII級フリゲート艦の船体をベースとして建造された海警船であり、2303・2305は、2024年9月以降、日本海から北太平洋においてロシア国境警備局と共同訓練と共同パトロールを実施し、10月には海警船として北極海を初航行した。この際、ヘリを使用したパトロールも実施している。海軍仕様の海警船をヘリの使用も見据えて尖閣周辺で活動させ始めた可能性があり、エスカレーションラダーを上げる準備を整えていると見られる。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海軍の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

【コメント】

12月 は延べ 34 隻の活動が確認された。

1 日は 11 月 29～30 日に実施された第 9 回共同空中戦略パトロール支援のために展開した艦艇の帰投の可能性がある。

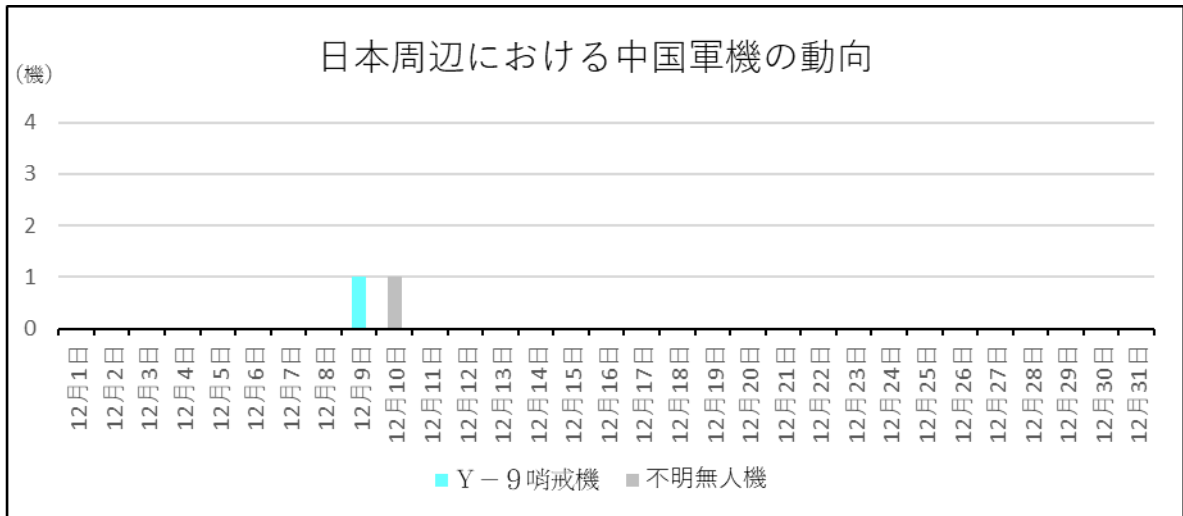
4～13 日は、9～12 日頃台湾周辺で実施された軍事演習に参加した艦艇が太平洋に展開～帰投した可能性がある。

19～22 日にかけても第 1 列島線付近での艦艇の活動が活発であった。このうち 5 隻は東部戦区海軍であり、大規模軍事行動後の補備訓練または年末検閲を実施した可能性がある。特に 22 日に沖縄・宮古間を東シナ海に西進した 3 隻は海警船 3 隻と共同運航し海上封鎖の訓練を実施したと報道されている¹⁰。

また、19～20 日に大隅海峡を東シナ海方向へ西進した 4 隻は北部戦区海軍でフチ級補給艦を含んでいることから遠海訓練を実施しており、軍事演習に参加したとすれば、第 2 列島線から第 1 列島線の間を展開し、接近阻止の訓練を実施した可能性がある。

一方、情報収集艦については軍事行動に参加し、日米の対応に関する情報収集を行った可能性もあるが、10 日に日米護衛艦によりグアム周辺海空域で実施された弾道ミサイル捕捉・追尾共同訓練等、日本・グアム周辺での情報収集を実施した可能性も考えられる。

○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国軍機の動向



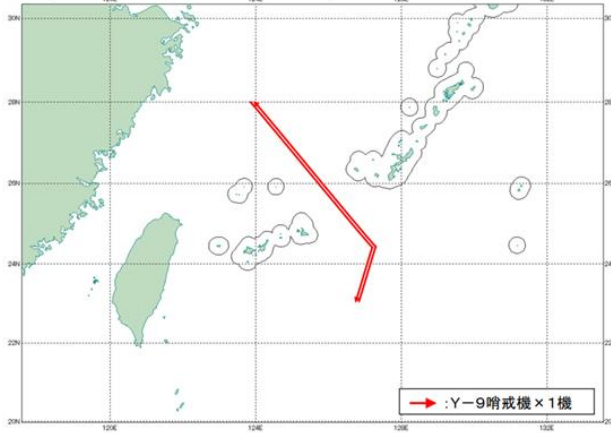
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

【コメント】

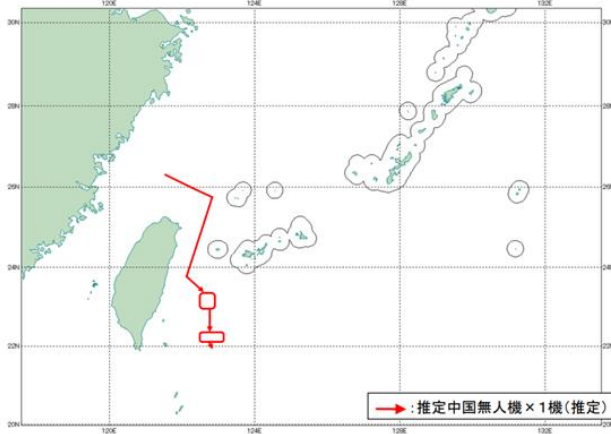
延べの2機の活動が確認され、共に台湾周辺での軍事行動に関連した飛行の可能性がある。

9日の哨戒機は展開していた艦艇と共に A2/AD のための対潜訓練を実施、10日の UAV は台湾を周回した UAV の飛行と関連していた可能性がある。

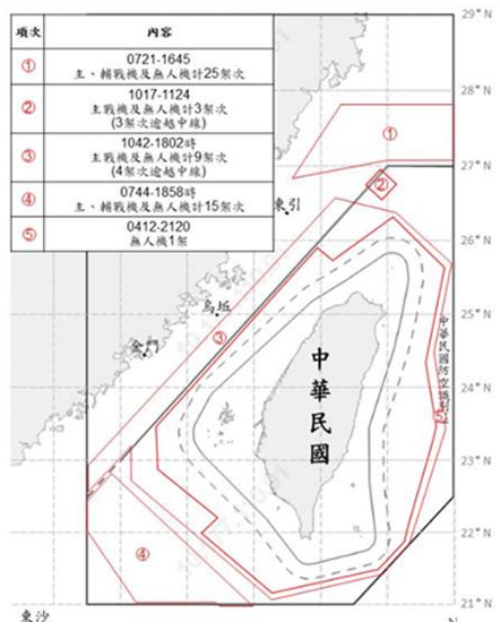
12/9 中国軍機の航跡 (防衛省発表)



12/10 中国軍機の航跡 (防衛省発表)



12/10 中国軍機の航跡 (台湾国防部発表)



(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 在日米宇宙軍が発足¹¹ 解放軍報 20241212

2022年に在韓米宇宙軍が発足した韓国と今月に発足した日本が積極的に米国と協力すれば、米国に自国の宇宙領域での核心的資源をコントロールされ、米の覇権獲得の道具に成り下がるだけであろう。

○ 自衛隊佐官級訪中プログラム¹² 国防部記者会見 20241213

中国国際戦略学会の招聘により、自衛隊佐官級訪中団は、11月26日～12月4日の間訪中。北京衛戍区警備師団、海軍基地、空軍八一曲芸飛行隊等を視察。中日防衛関係の発展は大局的長期的に考えねばならず、日本が相互交流を推進し、両国関係改善にプラスの方向に努力することを望む。

○ 石破首相が施政方針演説で大幅な防衛力強化に言及¹² 国防部記者会見 20241213

日本は中国軍事脅威論を喧伝しているが、軍備拡張の口実である。中日外務・防衛当局は一貫して海空安全保障問題で意思疎通をしており、日本がびくびくすることはない。データから見れば、日本側が中国艦艇・航空機に近距離で追跡・監視・妨害を行っており、中国の安全に危害を加えていることは明らかだ。

○ 沖縄駐留米海兵隊のグアム移転¹³ 国防部定例記者会見 20241226

関連報道を注視している。長年、在日米軍の犯罪が頻発しており、地元の人々の強い不安と抗議の原因となっていた。米軍の撤退は彼ら自身の選択であるが、本当に撤退するなら沖縄の人々の願いが叶うことであろう。

○ 米国防長官の訪日時東シナ・南シナ海等への言及¹³ 国防部定例記者会見 20241226

日米が中国に関する虚偽の発言を止め、排他的な小サークルを結成し対立を煽ることのないよう要求する。

【コメント】

自衛隊左官旧訪中団の受け入れ等、意思疎通のツールは維持するものの、日米同盟の強化を阻止する認知戦に変化はない。特に沖縄の在日米軍のグアム移転は中国軍にとって歓迎すべきものであるが、これを「沖縄の人々の願い」と喧伝し利用する姿勢をみせた。

5 国境地域等での活動：対フィリピン（以下、比）

○ スカボロー礁（中国名：黄岩島）

12月2日、中国政府は11月10日に公表した「中華人民共和国政府の黄岩島領海基線に関する声明」と海図を、国連に提出した¹⁴。

12月に中国が公式に表明したスカボロー礁での対比行動は以下の通り。

◇ 4日、比巡視船9701、4409及び公務船3002、3003がスカボロー礁の中国領海内への侵入を企図し、パトロール中の中国海警に危険な接近をしたため、法に基づき対処¹⁵。比公務船3003は大幅に角度を変え、故意に中国海警3302に衝突¹⁶。

4日全日で比巡視船4隻・公務船6隻・所属不明の多数の船舶がスカボロー礁領海及びサビナ礁周辺海域に侵入した¹⁷。

比公務船3003と中国海警3302が接触（2024年12月4日0704）



（資料源：中国海警局20241204）

◇ 19日、比のC-208機が中国政府の許可を得ずにスカボロー礁上空に侵入したため、海警は監視を行い、警告し駆逐¹⁸。

◇ 27日、海警がスカボロー礁領海及び周辺海域で法執行パトロールを実施¹⁹。

◇ 29日、南部戦区は海空兵力によりスカボロー礁の領海領空及び周辺区域を戦備パトロール²⁰。

スカボロー礁上空を飛行する比漁業水産資源局のC-208



（資料源：海洋装备与公务船资讯20241222）

比を監視する中国海軍ジャンカイIIフリゲート



（資料源：海洋装备与公务船资讯20241222）

このような中国の表明に対し、比沿岸警備隊報道官は、12月4日、スカボロー礁周辺海域で操業中の比漁船に補給を行っている比沿岸警備隊と漁業水産資源局の船舶に対し中国海警4隻と中国海軍艦艇500、571が危険な並走・放水等の攻撃的な行動を行ったと表明。

比水産資源局船舶に放水を続ける中国海警3302



(資料源：聯合報20241206)

比船と並走する中国海軍ジャンカイⅡフリゲート艦



(資料源：比沿岸警備隊報道官Twitter20241204)

○ セカンドトーマス礁

12月17日、海警局報道官は「12日、中国の許可を経て、比の民間船1隻がセカンドトーマス礁の座礁艦艇に生活物資を補給、中国海警は比船舶に確認し全行程を監視・管理した」と表明²²。

○ イロコイ礁

12月2日、海警局報道官は「近日、多くの船が中国海警の制止と警告にもかかわらず、漁獲と称して南沙群島イロコイ礁（中国名：蜆藤礁）に違法に集結し、同行したメディアが撮影・喧伝している。中国海警は法に基づき必要な措置を行った」と表明²³。

【コメント】

中国側は11月のスカボロー礁領海基線設定を機に取り締まりを強化しており、12月も継続された。セカンドトーマス礁では、比の補給活動に関し「中国の許可を得て」という表現を11月に引き続き使用している。比は中国の許可に関しては表明しておらず、一方的な許可制を常態化させようとしている。また、イロコイ礁での取り締まりも強化する等、法執行の範囲を拡大させている。

イロコイ礁で操業する比船



(資料源：環球網20241203)

各礁の位置



6 軍事交流

(1) ベトナム（以下、越）との共同訓練・軍事交流

○ 第 37 回中越トンキン湾共同パトロール

12月3～4日、中越両軍がトンキン湾共同パトロールを実施。

双方2隻、計4隻により約200カイリのパトロールを行い、データ共有や指揮を交代しての共同パトロール等により不測事態対処や海上安全維持能力の向上を図った²⁴。

○ 董軍国防相の越訪問

12月20日、董軍国防相は越を訪問し、越人民軍建軍80周年記念式典に出席した。また、19日には、ハノイでトー・ラム越共産党書記長と会談した²⁵。

【コメント】

越ハノイでは12月19日～22日、越国際防衛展示会2024が開催、国内外の企業242社が参加し、442のブースで戦闘機、輸送機、ヘリコプター、無人機、艦艇、砲やレーダーシステム、銃器、弾薬、電子戦機器など、多様な軍事装備品が展示された。中国も初めて参加し、国有の防衛関連複合企業である中国北方工業が出展。米国はインド太平洋軍のパパロ司令官も含む大規模な代表団を組み、越が購入に関心を示すC130輸送機を展示した²⁶。

越はこれまで主にロシアから兵器を輸入していたが、調達先の多角化を図っており、南シナ海領有権問題を有する中国以外の国からの調達を模索している。報道では、今次展示会で越国防産業総局と越軍隊通信グループであるベトテルが、合計2億8630万ドル相当の16件の契約を締結したほか、米、インド、仏、ベルギーなど、先進国の企業との間で17件の戦略的協力協定を締結したとされる。

これに対し中国は、共同海上パトロールの継続や董国防相の越共産党書記長との会見等により越との軍事交流を維持させており、越の米等西側諸国への接近を牽制した。

(2) インドネシアとの共同訓練・軍事交流

○ 中・インドネシア共同演習「和平神鷹-2024」

12月1～7日、中・インドネシア共同演習「和平神鷹-2024」を実施。陸海空三軍の共同演習としては初。

中国側は南部戦区の陸海空部隊が2機のY-20により移動し参加、インドネシアのジャカルタ、バンテン省において人道支援・災害救援(HA/DR)をテーマに陸海空それぞれの分野で共同災害救援等の実員共同訓練を実施した。

インドネシア軍部隊の代表は「両国の防衛協力強化は地域の平和に大いに貢献する。来年は更にレベルや規模を拡大した共同訓練を実施したい」と述べた²⁷。

混合編成で災害救援訓練を実施する中・インドネシア軍 右：海軍、左：陸軍



(資料源：環球網20241204)



(資料源：環球網20241206)

○ 中国海軍艦艇のインドネシア寄港

12月24日、ユーシェン級(075型)強襲揚陸艦「海南」とフリゲート艦2隻がインドネシア・タンジュンプリオク港に補給整備の為4日間寄港。この間、インドネシア海軍と文化交流を実施した。ユーシェン級強襲揚陸艦の外国寄港は初である²⁸。

【コメント】

インドネシアは10月に南シナ海のリアウ諸島付近の北ナツナ海印尼EEZに中国海警船が進入し、印尼国営石油会社の調査活動を妨害したとして、中国を非難し、緊張がやや高まっていた。そのような中、強襲揚陸艦を南シナ海での遠洋訓練に派遣し、インドネシアに寄港させて中国の海軍力を誇示したと言える。

一方、HA/DR分野ではあるものの、初の三軍共同演習を実施する等、剛柔取り合わせた対応を見せしており、南シナ海問題においては比以外のASEAN諸国を取り込もうとする姿勢を印象付けた。

(3) その他の国との軍事交流

○ 中・パキスタン対テロ共同演習「勇士-8」

11月20～12月14日、パキスタンのパピユ国家対テロ訓練センターにて中・パキスタン対テロ共同演習「勇士-8」が実施。勇士シリーズとしては8回目。前回の「勇士-7」は2019年に実施された²⁹。中国は西部戦区が参加、パキスタンと混合編成を採り、両軍の共同指揮や対テロ作戦能力の向上を図った³⁰。

中・パ混合部隊による対テロ実動演習



(資料源：CCTV20241216)

【コメント】

パキスタンでは、一帯一路等によるパキスタン政府と中国利権との協力を絡み、中国人を標的としたテロ事件が複数発生している。2024年10月にはカラチのジンナー国際空港付近で爆発が発生し、中国人2人が死亡、反政府武装組織「バロチスタン解放軍」が犯行声明を発表した。また11月にも同じカラチの衣料品工場で民間警備員が発砲し、2人の中国人が負傷した。

このような中国人被害が相次いでいることから、今回5年ぶりの対テロ共同演習となった可能性があり、パキスタン及び中国国内の反政府勢力に対し共同で示威行為を行ったと考えられる。

○ 第2回ギニア湾安全保障情勢シンポジウム

12月3～6日、中国海軍がギニア湾安全保障情勢シンポジウムを上海で開催。カメルーン、ガボン、ナイジェリア等19か国の海軍等の代表団が参加。5日には董軍国防相が各国の代表団長と会見し、「ギニア湾はその地域の国家にとって共通の庭であり、中国・アフリカ協力を強化し、海洋運命共同体を構築する重要な絆である。中国は同地区の各国軍と共に安全を擁護する共同責任を担いたい」と述べた³¹。

【コメント】

アフリカでは、ギニア湾において海賊事案が発生（2022年は19件、2023年は22件）しており、国際社会は同地域における海賊などの問題への取組を継続している。

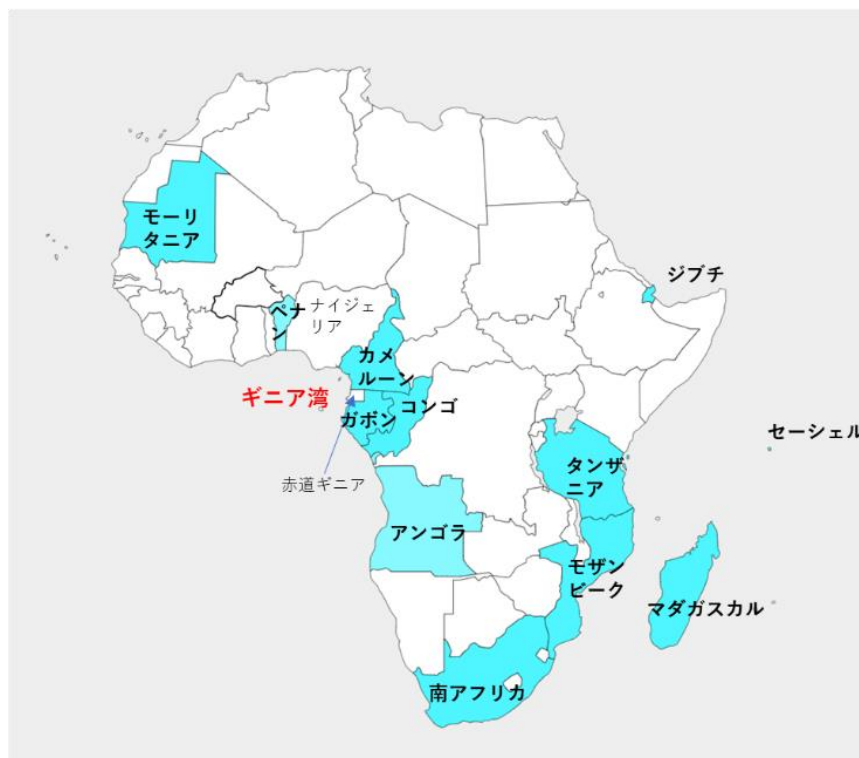
中国は2014年に初めてナイジェリア・ガーナ・コートジボワール・赤道ギニアと海賊対処共同訓練を実施した。それ以降、ギニア湾沿岸国への巡視船の供与や中国艦艇の寄港等を通じて影響力を強化している。2022年には赤道ギニアでの中国の軍事基地建設を米国が阻止との報道も散見された。

今次シンポジウムの参加の19か国の全ての国名は報道から確認できなかったが、IMB（国際海事局）は、分類上ギニア湾沿岸国をアンゴラ、ベナン、カメルーン、カーボベルデ、赤道ギニア、ガボン、ガンビア、ガーナ、ギニア、ギニアビサウ、コートジボワール、リベリア、ナイジェリア、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、サントメ・プリンシペ、セネガル、シエラレオネ、トーゴの19か国としており、19か国全てが参加した可能性がある。

更に中国海軍は本年6月から「和諧使命-2024」として海軍の病院船「平和の方舟」をガボン、カメルーン、等アフリカを主に13か国に派遣中である。

「平和の箱舟」医療船による「和諧使命2024」アフリカ訪問国（空色ハッチング）

中国は国家政策である一帯一路によりアフリカへの影響力強化を企図しているが、軍もそのためのアセットとして活用されており、特に海賊対処を名目としたアフリカ西海岸でのプレゼンス強化を図っている。



○ 露海軍の友好訪問

12月5～9日、露海軍のステレグシチー級フリゲート艦3隻(335, 339, 343)とドゥブナ補給艦1隻が青島に入港し、5日間の友好訪問を行った³²。

この間、相互の艦艇訪問、露艦隊指揮官と北部戦区海軍参謀部・青島市人民政府首脳陣との会見等が行われた³³。

【コメント】

同露編隊は10月7日に与那国島と西表島との間の海域を南西進した編隊³⁴。

12月2日に台湾南東沖45kmで中国艦艇1隻と共同模擬攻撃訓練を実施、3日には東シナ海へ入り、北上しつつ共同訓練を継続した模様であり、同じ3日には台湾周辺での軍事演習の為、中国海軍が東シナ海の空母「遼寧」編隊及び南シナ海の海軍・海警船を含む約40隻の艦艇を展開したと報道されている³⁵。

台湾有事の際、露海軍が日米への牽制や情報収集のために第1列島線内に展開する可能性はあり、その際の中国側との連携を検討している可能性がある。

○ 何衛東中央軍委副主席のキューバ訪問

12月11日、キューバ訪問中の何衛東中央軍委副主席はカネル・キューバ共産党第一書記兼大統領と会見した。また、両軍関係の強化等に合意した。また、ロペス・キューバ革命軍大臣と会談し、両軍関係や国際情勢等について意見交換を行った³⁶。

○ 第14回中仏高級幹部安全保障政策検討会

12月8～14日、第14回中仏高級幹部安全保障政策検討会が国防大学で実施された。「中仏の戦略協力の強化・世界の平和安定の擁護」をテーマに意見交換を実施³⁷。

【参考文献】

- 1 国防部網 20241205
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16356289.html
- 2 国防部網 20241220
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16359844.html
- 3 中華民國国防部 20241209
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83790&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 4 ロイター 20241210
<https://jp.reuters.com/world/taiwan/CERNKW5MFFI5VCDBRZU6O6FXEQ-2024-12-09/>
- 5 国防部網 20241213
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/xwfy/yzxwfb/16358016.html>
- 6 中国軍網 20241228
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfb&paperDate=2024-12-28&paperNumber=03&articleid=946450
- 7 海洋委员会海巡署 20241231
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/lp?ctNode=650&mp=999&nowPage=1&pagesize=15>
- 8 中国海警局 20241231
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202412/t20241231_2582.html
- 9 中国海警局
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241205_2563.html
- 10 読売新聞 20250101
- 11 解放軍報 20241212
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20241212/e4bf30ab53d610319d80a675b24c698c.pdf>
- 12 中国国防部 20241213
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16357924.html>
- 13 国防部網 20241226
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16361452.html>
- 14 新華網 20241202
<https://news.cctv.com/2024/12/03/ARTIkmiXRC3rKtKP6Fr3qMDW241203.shtml>
- 15 中国海警局 20241204
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241204_2557.html
- 16 中国海警局 20241204
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241204_2559.html
- 17 中国海警局 20241205
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241205_2565.html

- 18 中国海警局 20241220
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241220_2578.html
- 19 中国海警局 20241227
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241227_2581.html
- 20 新華網 20241229
<http://www.news.cn/politics/20241229/2b030874c74e4e8daf47a2d878084935/c.html>
- 21 比沿岸警備隊報道官 Twitter20241204
<https://twitter.com/jaytaryela/status/1864123299007222026>
- 22 中国海警局 20241217
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241217_2577.html
- 23 中国海警局 20241202
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202412/t20241202_2555.html
- 24 中国軍網 20241215
http://www.81.cn/szb_223187/szblb/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-12-05&paperNumber=04
- 25 国防部網 20241219
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16359786.html>
- 26 ベトナムの声放送局 20241222
<https://vovworld.vn/ja-JP/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9/%E3%83%98%E3%83%88%E3%83%8A%E3%83%A0%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E9%98%B2%E8%A1%9B%E5%B1%95%E7%A4%BA%E4%BC%9A%E3%81%A6-2%E5%84%848630%E4%B8%87%E3%83%88%E3%83%AB%E7%9B%B8%E5%BD%93%E3%81%AE16%E4%BB%B6%E3%81%AE%E5%A5%91%E7%B4%84%E3%82%92%E7%B7%A0%E7%B5%90-1353788.vov>
- 27 中国軍網 20241205
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-12-06&paperNumber=04&articleid=944986
- 28 中国軍網 20241226
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-12-26&paperNumber=04&articleid=946353
- 29 中国軍網 20241121
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-11-21&paperNumber=03&articleid=943905
- 30 中国軍網 20241218
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-12-18&paperNumber=04&articleid=945787

- 31 中国軍網 20241206
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-12-06&paperNumber=01&articleid=944993
- 32 中国軍網 20241206
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-12-06&paperNumber=04&articleid=944985
- 33 国防部網 20241210
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16357348.html>
- 34 統合幕僚監部報道発表資料 20241211
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20241211_03.pdf
- 35 自由時報 20241203
<https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/4882564>
- 36 国防部網 20241212
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jswj/16357912.html>
- 37 国防網 20241226
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16361452.html>

中国軍事動向月報 2024年12月

2025年1月9日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。